



巻頭言

消化器内科 教授 /

いとう たかよし
伊藤 敬義

昭和大学江東豊洲病院は2014年3月に開院し10年が経過しました。消化器センターは開院時、昭和大学附属4病院から集まって25名（消化器内科は9名）でスタートしました。開院当初は病棟管理や外来診療は各臓器別に外科・内科合同で行ないました。この経験が当センターでの外科・内科連携が密にとれる基礎となりました。消化器疾患の外来・入院患者は近年増加しておりますが、現在は毎年のように専攻医及び指導医が増え、多くの患者への対応が可能です。当センターの在職者は現在56名（消化器内科36名、消化器外科20名）に増えました。この中には江口准教授が副センター長の救急診療科所属が5名、また豊洲クリニック院長として浦上准教授が含まれています。消化器疾患診療で重要な救急部門、検診部門の充実に貢献しています。更に4月から働き方改革の順守が求められ、時間外労働時間の管理が徹底されました。理想の医療体制実現には医師の人材確保がどの施設でも大きな課題となりました。



当センターでは食道・胃・小腸・大腸の消化管と肝臓・胆道・膵臓の実質臓器あらゆる消化器疾患に対する診療を行っています。がんから良性・機能的疾患に至るまで、迅速に診断を進め根治的かつ低侵襲な治療をめざしています。これは井上晴洋センター長が開院時より推し進めてきたもので、特に食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)、逆流性食道炎に対する内視鏡治療(ARMS)は当院のオリジナルで全国からの紹介患者を治療しています。

また消化器がんに対する低侵襲の内視鏡的粘膜下層剥離除/粘膜切除術(ESD/EMR)、肝がんに対するラジオ波焼灼療法は標準治療となっています。進行肝がんは多くが肝硬変を合併し肝機能管理が難しく、肝臓専門医が腫瘍内科と連携して昨今急速に普及している全身薬物療法を行ないます。更に救急医療で重要な膵・胆道疾患において急性胆管炎、胆嚢炎、膵炎は重要な疾患群であり、緊急の胆道ドレナージが常に行える体制が重要です。当院ではほぼ毎日これらの緊急処置に対応し、更に進行膵・胆道がんによる胆道閉塞の内視鏡治療にも積極的です。昨年は500件以上のこれらのERCP関連治療を行っています。もちろん消化管出血、穿孔、ヘルニア^{ひんどん}嵌頓、腸閉塞などの救急疾患にも消化器センターで24時間対応しています。

今年は医療における働き方改革元年になりますが、当消化器センターでは診療・教育・研究を充実させることによって人材を確保し、救急医療、先進医療をはじめとした地域の医療ニーズに応えていきたいと思っております。



第123号のトピックス

- ・巻頭言（消化器内科）
- ・栄養科紹介
- ・第18回公開講座開催報告・動画配信のお知らせ
- ・セブイベント開催のお知らせ
- ・厚生労働省より感謝状をいただきました
- ・編集後記

栄養科 管理栄養士 / まちだ あゆみ

2024年4月より栄養科の責任者を務めることになりました管理栄養士の町田あゆみと申します。当院の給食は給食委託会社に業務委託し、医師の指示のもと、病院で定めた食事の基準に沿って提供されています。病院給食は治療でありながら患者サービスの一面を持ち、双方を両立するのはなかなか至難の業ではありますが、委託業者と協力して治療の支えになる食事を提供できるように励んでおります。

当院の給食

給食委託会社 約40名
(株式会社グリーンヘルスケアサービス)
給食形態 ニュークックチル
1日平均食数 約700食



夕食（一例）

ご飯 味噌汁 キャベツ
チンゲン菜の和風和え物
白身魚のフライ マンゴー

栄養科は患者さんへ給食を提供するだけでなく、入院患者さんの栄養評価や食事の調整、栄養指導、NST や褥瘡ケアチームなどをはじめとしたチーム医療への参加など、多岐にわたる業務をしております。院内では「いつもどこにいるの?」とよく聞かれますが、地下1階の栄養科から病棟、外来栄養指導室と移動をしていることが多いです。

栄養指導では、入院と外来の患者さんを対象に医師の指示のもと、糖尿病・脂質異常症・高血圧・腎臓病・消化管の術後・低栄養・嚥下障害、など、様々な疾患に対して栄養指導を実施しています。時々、「栄養指導は管理栄養士に怒られるから受けたくない」なんて云われる方もいらっしゃいますが、もちろんそんな指導はしませんのでご安心ください。栄養指導では患者さんの日々の生活を伺い、患者さんそれぞれの状況に合わせた内容で行います。管理栄養士と話すことで、自身を客観的に振り返り、新しい気づきがあったりします。栄養指導をご希望の方は担当の医師を通し予約をお願い致します。

栄養科は今年新入職員を2名迎えて6名の管理栄養士が在籍することとなりました。

当院では開院してから最大の在籍人数となりました。これまでよりも、より患者さんの近くでサポートをしていきたいと思っております。

今後とも栄養科をよろしくお願いいたします。



栄養科スタッフ

下段（左から）：北原、町田、芦沢
上段（左から）：金木、佐伯、片桐

第18回公開講座開催報告・動画配信のお知らせ

6月8日(土)、第18回公開講座を開催しました。「暮らしと健康〔しっかり噛んで飲み込もう!〕—いつまでもおいしく健康に—」というテーマで、第1部では、「飲み込みに大事な歯とお口の健康」の演題で病院歯科・鎌谷宇明准教授が口内環境と飲み込みの関係性について講演しました。第2部では、「のどを鍛えて誤嚥を防ぐ」の演題で耳鼻咽喉科・木村百合香教授が窒息の対処方法や誤嚥を防ぐためののどの筋肉の鍛え方について、実演を交えて講演しました。

受講された方からは、「とても分かりやすく、参考になった」「とても良い試みなので、ずっと続けてほしい」などといったお声をいただきました。一方で、今回は早い段階で申込数が定員に達したため、参加できなかった方も多くいらっしゃいました。

当日の講演内容は後日ホームページで公開する予定ですので来場できなかった方はもちろん、すでに受講済みの方もぜひご覧ください。

次の開催は今年の秋頃を予定しております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



(左から) 大槻公開講座委員長、
耳鼻咽喉科 木村教授、病院歯科 鎌谷准教授



誤嚥防止の体操の様子

七夕イベント開催のお知らせ

七夕という企画を通じて、院内生活を送られている方をはじめ、当院を利用される方に季節感を感じていただきたく、6月27日(金)から7月7日(金)まで今年も1階ロビーに笹飾りを設置します。ご来院の際は、ぜひ願い事をお寄せいただき、たくさんの短冊で笹を飾ってください。



昨年の笹飾りの様子

厚生労働省より感謝状をいただきました

東京都を通じて厚生労働省医政局長より、令和6年能登半島地震の被災地支援に貢献したとして、当院のDMAT（災害医療派遣チーム）に感謝状が贈呈されました。

チームは1月22日に当院を出発し、参集拠点である能登中部医療圏活動拠点本部（石川県七尾市の能登中部保健福祉センター）に向かい、1月24日から26日まで被災地で活動を行いました。



被災地での活動の様子



左から倉富看護師、小林看護部長、森田副院長、横山病院長、高田調整員、平山看護師



編

集

後

記

あっという間に今年も前半が終わり、ようやく夏本番の季節になってきました。夏は海、山、花火、祭りなど楽しみなイベントがたくさんありますが、今年はオリンピックイヤーです。7月26日からパリオリンピックが開幕します。日々いろいろなことが起き、予測不可能な時代に突入しておりますが、オリンピックを通じ、日本代表選手の活躍から勇気や元気をもらいながら熱く応援したいです。そして最近では日中の強い日差しが少々身体に堪えるような感じが致します。夏は熱中症にも注意が必要です。今年は例年以上の猛暑になるとの報道もあり、より注意が必要かもしれません。こまめに水分・塩分摂取をしながら、適度な運動で体力をつけていきましょう。皆様、身体を労わりながら、また1ヶ月健やかに過ごしてください。

呼吸器・アレルギー内科 あきもと かほ
秋本 佳穂



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital